

# ニラの新害虫 “ニラフシダニ(仮称)”



写真1 ニラフシダニ(仮称)成虫



写真2 葉の水疱症状

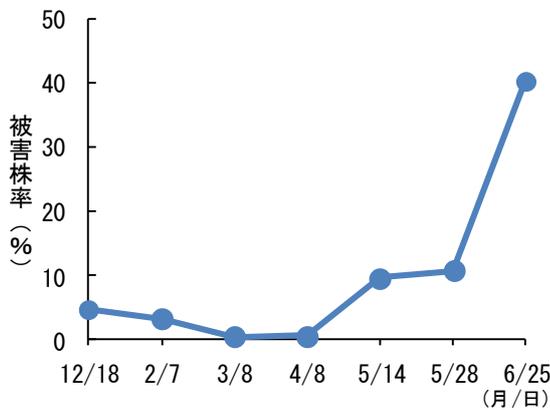


図1 ニラフシダニ(仮称)被害株率の推移

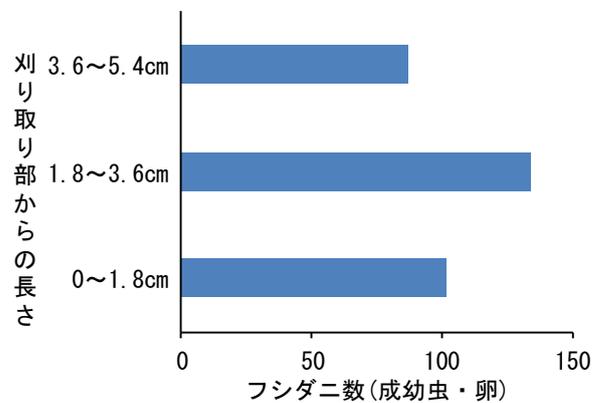


図2 ニラフシダニ(仮称)の寄生部位

令和5年11月、高知県の施設ニラほ場で、新害虫“ニラフシダニ(仮称)(以下フシダニ)”の発生が確認されました。本種は新種の害虫であることから、不明な点が多いため、発生生態について調査したので紹介します。

成虫の体長は約0.2mm(写真1)で、食害により葉に水疱症状を引き起こします(写真2)。本種は施設内だけでなく露地や野良生えのニラにも寄生していることを確認しました。さらに、それらの株では冬期でも生息個体を観察したことから、高知県では野外で越冬する可能性が示唆されました。所内施設ほ場で本種による被害株率の推移を調査した結果、被害株は12~3月には少なかったものの、4月から徐々に増加し、6月には約40%の株で被害が

確認されました(図1)。被害株を観察すると葉鞘部に寄生する個体を多く認めたため、地際部で刈り取ったニラに寄生するフシダニ個体数を刈り取り部からの長さ別に調査した結果、地際に近い葉鞘部まで寄生していることが明らかになりました(図2)。このことから、フシダニ発生ほ場では、収穫後、葉鞘部に残ったフシダニにより被害が継続する可能性が考えられます。

今後も引き続き、本種の発生生態や有効薬剤を明らかにし、防除体系の確立に取り組んでいきます。

(昆虫担当 吉田百花 TEL088-863-4915)